

将来の価値創造に向けた重要課題



イノベーションの推進

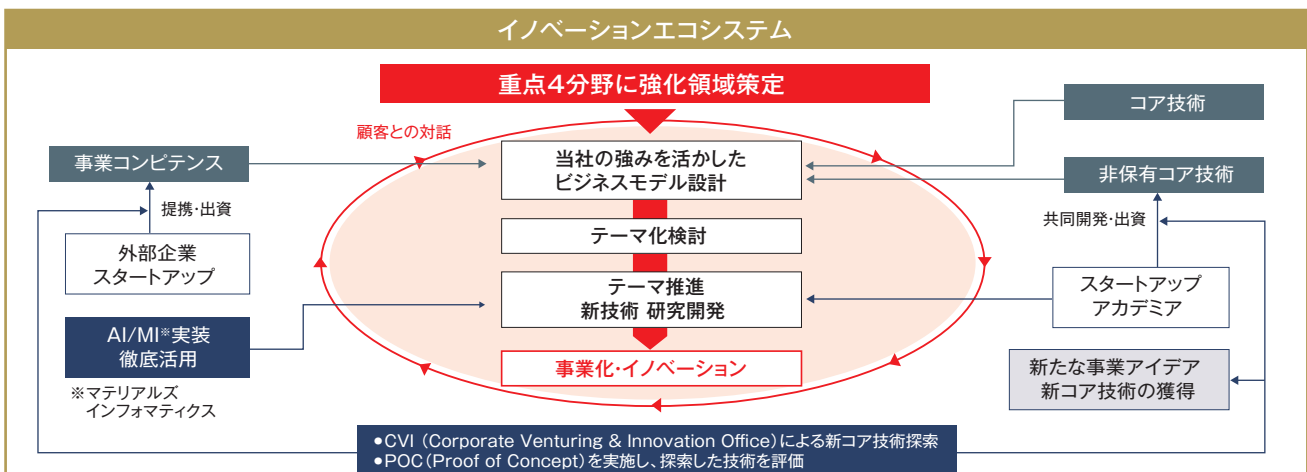
住友化学のコア・コンピタンスの一つである、「幅広い技術基盤を活かしたソリューション開発力」によって生み出されるイノベーションが当社の将来価値の源泉であると考え、「イノベーションの推進」を将来の価値創造に向けた重要課題の一つに定めています。当社はこれからも、環境・食糧・ヘルスケア・ICT関連の重点4分野を中心としたイノベーションを通じて、企業価値の向上に努めていきたいと考えています。

次世代事業の創出を加速する住友化学のイノベーションエコシステム

重点4分野における研究開発・事業開発を、着実に次世代事業の創出につなげるため、住友化学では、イノベーションエコシステム(継続的にイノベーションを創出するシステム)を構築しています。

重点4分野の中で注力すべき強化領域を策定し、各強化領域において、当社が保有するコア技術と非保有コア技術を見極め、非保有技術についてはスタートアップやアカデミアとの連携により獲得しています。事業コンピタンスについても、不足する部分を外部企業やスタートアップとの提携・出資などにより補完して、当社の強みを活かし

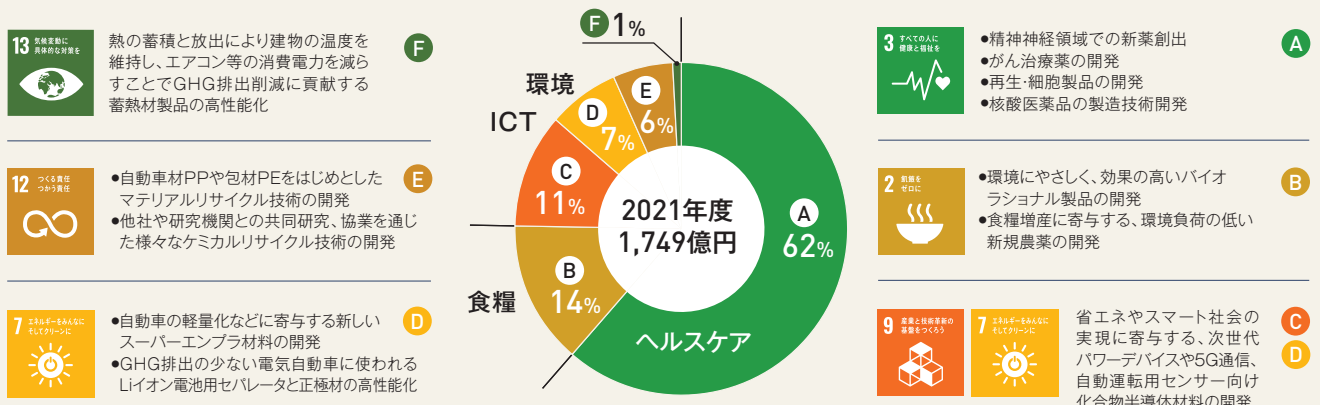
たビジネスモデルを設計し、テーマ化を検討しています。テーマを推進する各段階においては、社内関係部門、外部連携先、顧客と密接なコミュニケーションを取り、そのフィードバックを適切に反映することにより、研究開発を推進しています。また、開発加速のためにAI、MIなどのデジタル技術を徹底的に活用します。さらに、テーマ推進およびパートナーとの対話の中で新たに生まれたアイデア・技術も取り込みながら、継続的なイノベーション創出につなげていきます。



TOPICS

研究開発費のSDGs別内訳とテーマ例

2015年に国連で策定された「持続可能な開発目標(SDGs)」では、気候変動や生物多様性、健康促進など、当社が目指すグリーントランスフォーメーション(GX)のテーマを含む17の目標が掲げられており、当社では、下表に示すとおり、様々なSDGsゴールに関連するテーマに研究開発費を投じています。ここから生み出されるイノベーションによって、事業ポートフォリオの変革を進め、GXを通じた「自利利他 公私一如」を実現します。



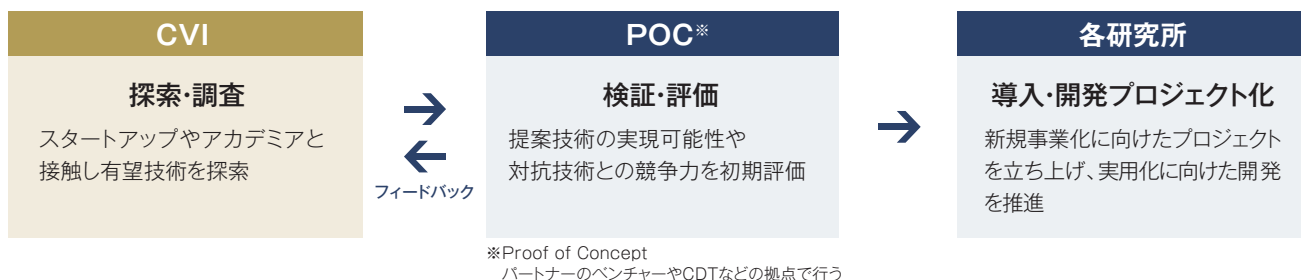
イノベーションの機会拡充に向けて

CVIの設置

住友化学では、シリコンバレーなどの世界トップクラスのイノベーション集積地に深く入り込み、画期的技術を早期発掘するとともに、有望技術の実用性の検証や、各研究所での開発ステージへの移行の円滑化をサポートするCVI(Corporate Venturing &

Innovation Office)を設置しています。CVIで探索した技術についてProof of Concept(POC)を行い、事業化する価値が認められたものに関しては、各研究所に展開され、事業化に向けた開発が始まります。

CVIを活用した外部技術導入の流れ



※Proof of Concept
パートナーのベンチャーやCDTなどの拠点で行う

CVI拠点	開設時期	特徴
米国:ボストン(東海岸)	2019年4月	・ ライフサイエンス系の主要ハブ ・ 良質なスタートアップの群生地
米国:サンマテオ(シリコンバレー)	2020年3月	・ 世界最大級のイノベーション拠点 ・ 有望スタートアップの圧倒的な集積度
英国:ケンブリッジ(既存CDT*に編成)	2020年4月	・ プリンテッドエレクトロニクスの研究基盤 ・ アcademiaとの機能的連携性

*Cambridge Display Technology社

SYNERGYCA

2021年12月、東京本社の移転に伴い、新社屋内にオープンイノベーションの重要な取り組みの一つとしてSYNERGYCA(シナジカ)共創ラウンジを開設しました。SYNERGYCAは、産官学の来訪者の方々に住友化学グループのテクノロジーを見て、触れて、体験していただきながら、当社と来訪者が共に価値創造に繋がるアイデアや気づきを生み出すための共創の場です。

来訪者とのコミュニケーションを促進する「集う」エリア、当社グループの歴史や製品、技術、研究開発の取り組みを、デジタルコンテンツを多用し楽しくわかりやすく「体験する」エリア、来訪者と社

会課題やお互いの興味を共有し、課題解決方法を共に探る「交わる」エリアを設け、プロのファシリテーターの活用による議論の促進、マインドマップを用いた議論内容の可視化により来訪者との共創の活性化を図っています。

床はコンクリートのまま、天井はパイプなどがむき出しの状態とし、交流や議論をしやすい非日常空間としています。さらに、来訪者との有意義な機会にするため、プログラムは来訪者の興味に合わせ、参加形式はリアルでもオンラインのみでも見学や議論ができる場になっています。



SYNERGYCAの様子



「交わる」エリア
お互いの課題、関心のある社会課題などを共有し、その解決に向けてブレインストーミングや意見交換を行う